輪作体系の再構築による持続可能な地域農業の確立

～未来へ続け！感動の径（みち）～

活動年次：令和３年～

網走農業改良普及センター網走支所

1　課題設定の背景 **********

対象：網走市中園　第16地区６戸・１法人

地域の現状

○馬鈴しょ作付面積は種子の供給不足で栽培面積の維持が困難となっている。
○てんさいの生産性が地域平均よりやや低く、年次変動が大きい。
○経営者の世代交代は順調に進んでいるが農業従事者の高齢化に伴う労働力不足に対して危機感を抱いている。

課　題

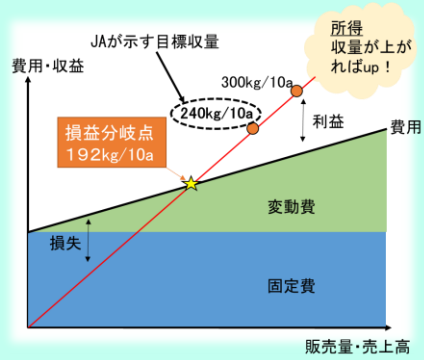
○新規作物の導入によって輪作体系を維持し経営の安定化を図る。
○てんさいの生産性向上を図って安定した農業所得を確保する。
○労働力不足に対応するため作業の省力化および作業効率の向上を図る。

2　活動の経過 **********

■　新規作物（大豆）導入による輪作体系の確立

□馬鈴しょ面積減少分の所得を補う品目として大豆導入を支援！

適期収穫の推進



損益分岐点を提示

■　畑作物の安定生産

□てん菜の低収要因と栽培実態を把握して生産性の改善を提案！

施肥位置の改善を提案

移植時の株間を把握

土壌の高度を調査

3　活動の成果 **********

■　新規作物（大豆）導入による輪作体系の確立

目　標　事　項	目　標	実　績
大豆栽培技術の習得	5戸	3戸

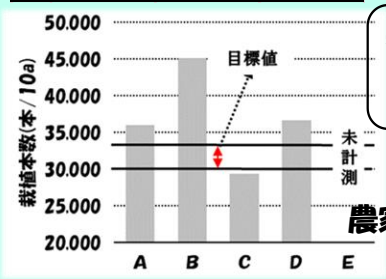
【チェックリスト区分】
栽植本数：3万本/10a±21%未満→✔
　　3万本/10a±21%以上→△
適期防除：菌核病・ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞともに実施→✔
　　菌核病・ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞいずれか実施→△
適期収穫：実践→✔

評価事項チェックリスト

	栽植本数	適期防除	適期収穫
A	✔	△	✔
B	△	✔	✔
C	✔		✔
D	✔	✔	✔
E	―		✔

□　菌核病防除
農家B, Dは適期に実践
農家A, Eは早すぎ、Cは大きく遅れた。

□　ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ防除
農家A, B, Dは適期に実践
農家C, Eは遅れた。



農家A、C、Dは概ね適正

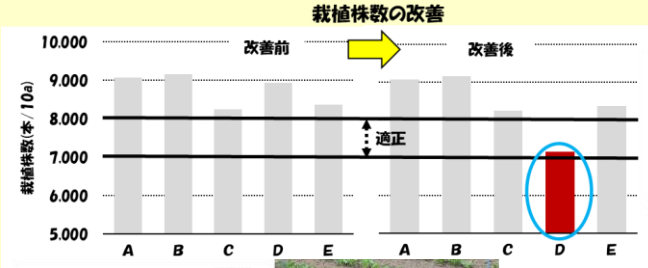
収穫時の子実・茎水分と汚粒率

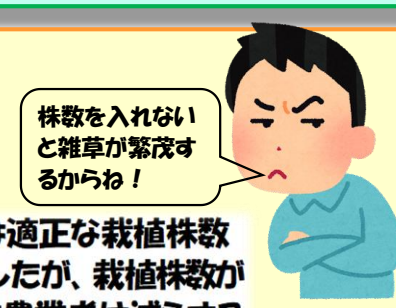
	子実水分 (%)	茎水分 (%)	汚粒率 (%)
A	12.6	35	9.3
B	14.7	21	7.0
C	15.2	23	3.7
D	14.7	23	5.2
E	15.2	25	35.9

子実・茎水分が収穫開始レベルに達した3日後に収穫が始まって受け入れ基準の子実水分(16%)もクリアした

■　畑作物の安定生産

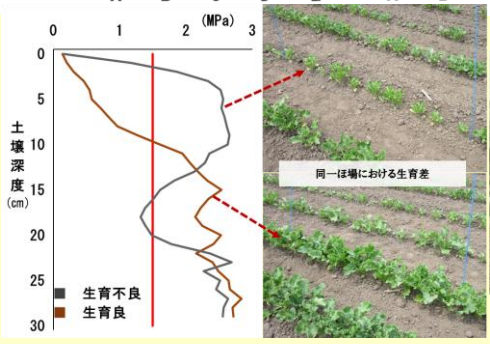
目　標　事　項	目　標	実　績
てんさいの安定生産	5戸	1戸





農家Dは適正な栽植株数に改善したが、栽植株数が多かった農業者は減らすことに不安・・・

深すぎた施肥位置(深さ12～13cm)が7～9cmに改善された



4　今後の活動 **********

■　新規作物（大豆）導入による輪作体系の確立

ア　砕土率の改善
　　発芽率向上、雑草対策
イ　適期防除の推進
　　各戸の作業体系に対応した防除の提案
ウ　刈取り損失の低減
　　最下着莢位置が上昇する草姿に

■　畑作物（てんさい）の安定生産

ア　土壌硬度の改善
　　適切な砕土率に向けた支援
イ　栽植株数の改善
　　育苗コストの算出と雑草対策の提案
ウ　直播栽培に向けた条件整備
　　育苗コストの算出と雑草対策の提案